

わかやま母親通信

第110号 2022年12月8日発行

発行 和歌山県母親大会連絡会 事務局 和歌山市小松原通3の20 和歌山県教育会館内
和教組 TEL073-423-2261 FAX073-436-3243 母連メール：w_haharen@wkn.or.jp

生命を生み出す母親は
生命を育て
生命を守ることをのぞみます

12.8母親・女性たちの平和行動～全国で 県下各地で～ HP 和歌山県母親大会

戦争する国への道は、絶対許さない！

ロシアのウクライナ侵略が長期化する中で、さらに、パレスチナ・ガザ地区へのイスラエル軍の容赦ない爆撃が連日続いています。国内では、岸田政権になって、2年間で軍事費を2.5兆円増やし、沖縄・奄美などの南西諸島の軍事要塞化を進めています。

「世界中でもっと『戦争止めよ』の声を大きく！」「今こそ平和憲法の精神を声高に！」—今年12.8母親・女性たちの平和行動は、こうした思いを一層強く持ちながら、各所で街頭宣伝や学習会に取り組み、赤紙を配布しました。

第69回日本母親大会 in 和歌山への諸準備始まる



2024年の年が明ければ、いよいよ本格的取り組みが開始されます。

この1年間は、「in 和歌山」について取り組みを進めるための加盟団体内の意思統一や諸項目についてのアンケート集約などをしてきました。さらに、広くお知らせし、諸団体への協力依頼もしてきました。秋には、県をはじめ、県内自治体・教育委員会への後援依頼にも取り組みました。現時点で、県1・県内自治体22/30・教育委員会19/30の後援承認をいただいています。(よく頑張ったー。郡市母連のみなさんにも、感謝) 各郡市母親大会も開催できていますので、その報告を、3面に掲載しました。

明日へ

「和歌山の歴史—女性たちのたたかい」第三回 母親大会の始まり

切実な要求実現に取り組んだ母親運動

1954年3月1日、太平洋上でアメリカが行った水爆実験によって、多くの日本の漁船が被曝し、第五福竜丸乗組員の久保山愛吉さんが亡くなる出来事に日本中が衝撃を受けました。そこから、原水爆禁止運動と日本母親大会は、翌年同時に生まれました。

日教組婦人部が提起した「母と女教師の会」に取り組んだ翌1956年、和教組婦人部が事務局をもち、教職員と保護者だけでなく、もっと幅広く民主団体や労働組合に呼びかけて和歌山県母親大会を開催することになりました。



第1回日本母親大会へ出発する和歌山県代表团 1955年

12月2日、東牟婁郡・勝浦小学校の会場へ、全県から夜行バスで駆けつけた参加者は、2,200人に上りました。当日朝には、「只今から母親大会が開かれます。町内のお母さん、参加しましょう」と町内放送が流れたと言われます。

こうして8年間続いてきた県母親大会とそこで生まれた諸要求は、粘り強い母親運動と母親対県交渉で数多く実現させてきています。

「2歳児未満の乳幼児医療費無料化(73・1)」

「老人医療費無料県独自措置 67歳～(73・10)」

「田辺市で学童保育所設置(73)」などなど…。



第1回和歌山県母親大会
東・勝浦小 1956年

日高原発、日置川原発反対闘争

関西電力による紀伊半島への原発立地計画は、漁師や地域住民への利益誘導や供給の形で始まりました。すでに、行政の長や地元有力者は賛成を表明し、「推進あるのみ」の状況になっていました。それでも、漁師のおかみさんや地域の女性たちはひるみませんでした。相談を受けた女性教師たちも、すぐに動きました。

日高町も日置川町も、町民当事者が賛成・反対で血肉の争いとなる激しい論争を経て、反対への意思統一を図り、和教組や和高教など労働組合は、「30キロ圏内住民の会」で、周辺住民も共に闘う運動を積み上げました。結果、紀伊半島のどこにも、原発は建設されませんでした。最終号、カジノ反対の闘い、平和を守り要求実現の運動です。



2017・11 母親対県交渉

2024年第69回日本母親大会 in 和歌山に向けた会議予定

日本母親大会実行委員会/近プロ会議	現地役員会/運営委員会/実行委員会
	1/13 土 県役員会
/1/18 木 近プロ会議	/20 土 第一回現地実行委員会
1/25 木 山口大会総括の実行委員会	/26 金 県役員オンライン会議
/2/15 木 近プロ会議	2/11 日 国際女性デープレ集会
2/21 水 第1回運営委員会	2/17 土 県役員会
横山・石原選出	2/24 土 第3回現地運営委員会
/22 木 第1回実行委員会	3/01 金 県役員オンライン会議
	3/8を中心に 各地の国際女性デー
/3/24 日 近プロ学習会	3/16 土 県役員会
*日本母親 小松さん	3/30 土 第二回現地実行委員会
3/27 水 第2回運営委員会	*日本母親事務局来和
3/28 木 第2回実行委員会	4/05 金 県役員オンライン会議

10/14(土)13:30 海南海草母親大会を開催

来年の日本母親大会で見学分科会を担当することになったので、今年の都市母親大会は、自分たちで予定コースを体験してみることにしました。

第1部で、母親大会の歴史やこの数年の現状について話し合った後、第二部は、場所を藤白神社へ移動し、語り部さんの説明を聞きました。担当の語り部さんは、「みなさんは地元の方だと思いますが、来年の見学分科会を考え、遠くから来られた方のお話するつもりでしゃべっています」と始めてくれました。

藤白王子は、平安時代から盛んに行われた熊野詣での礼拝所で、平安末期に熊野から移り住んだ鈴木氏が全国に熊野信仰を流布する拠点とした処だということです。権現本堂や有馬皇子史跡、新しく改修された鈴木屋敷など、1時間見学しました。



鈴木屋敷へ

来年の見学分科会に来て、「和歌山良かったよー」と言っていただけるよう、さらに知恵を出し合っていきたいと考えています。

10/29(日)13:30 伊都橋本母親大会を開催

橋本市民会館にて開催しました。参加者37名で、30代から90代までの人（うち男性5名）が集まりました。オープニングで、第67回日本母親大会in埼玉・群馬ダイジェスト映像を上映しました。全国の母親たちの願いが熱をもって集結した様子に感激したとの感想が寄せられ、来年の和歌山での大会への気運が盛り上がりました。

講演は、和歌山有機認証協会事務局長のなかむらいづみさんに、「身近な食べ物の話」～より安心して暮らすための知恵～という演題でお話して頂きました。「何気なく食べるのではなく、食べ物の向こう側に意識を向けて、より良いものを選ぶことは、安心して暮らすための知恵です。身につけた知恵を大切な人と共有し、共に喜びをもっといただく、これこそが、真の世界平和に繋がると信じています。」と結ばれ、様々なことを教えて頂きました。



「青い空は」で始まり、「いまわたしたちは」で締めくくる心熱くなる大会でした。

「青い空は」で始まり、「いまわたしたちは」で締めくくる心熱くなる大会でした。

11/11(土)13:30 那賀母親大会を開催

11月第2土曜日は那賀母親大会の定例日です。10数年前に那賀地方各民主団体が集まり、それぞれ日を割り振り決められたものです。

今年は11日(土)に開催し、各団体から58人の参加があり、和やかな雰囲気の中で、

- ①埼玉・群馬大会のダイジェスト、②有吉佐和子の分科会への協力と参加の呼びかけ、③「はだしのゲン」のアニメ視聴と進められました。数人の男性の参加もありました。

アンケートではどの企画も好評で、「はだしのゲン」は観たかったので、良い機会だったという方が何人かいました。ダイジェストは熱気が伝わってきたとか、来年、和歌山であんなのができるのでしょうか!! (期待)などありました。

母連事務局は、若手を昨年1人、今年2人迎えて、活気づいています。新しい発想、視点、十分な気力、え〜でえ!!

第68回日本母親大会 in 山口 11/25(土)~26(日)



